

## 第5波開始時 感染歴2.1% PCR陽性の2.5倍 兵庫・抗体解析

兵庫県で健康診断を受けた人の血液を調べた結果、新型コロナウイルスに感染歴のある人の割合がこの夏の時点で2.1%だったことが分かりました。PCR検査で陽性と判定された人の割合の2.5倍に相当し、その差は、PCR検査で捕捉されていない無症状者や軽症者を示すとみられます。

神戸大学などの研究チームが9月30日、発表しました。解析したのは、7月19日～8月6日に兵庫県健康財団で健康診断を受けた1000人の血清中に含まれる新型コロナウイルスに対する抗体。感染歴のある人があつとみられる、ウイルスの「Nタンパク質」に対する抗体の保有率は2.1%という結

果でした。この時点でのPCR検査にもとづいた感染率は、兵庫県で0.85%、全国では0.80%でした。また同様の解析を行った昨年10月から約5倍に増えました。

抗体保有率は、40代(4.1%)と30代(3.4%)で顕著に高く、男性(2.7%)は女性(1.2%)の2倍以上でした。

た。

一方、国内で接種が進むワクチンによってつくられる「Sタンパク質」に対する抗体の保有率は38.7%でした。兵庫県での8月6日時点のワクチン接種率(1回目42.10%、2回目32.85%)を、おおむね反映しているといいます。

研究チームは、血清中の

抗体価測定は、集団内の病原体の広がりを把握するうえで最も信頼できる方法だと指摘。今回の研究は、日本での第5波開始時点の感染の広がりを大規模に示した初めての報告だとしています。

査読前の論文が、健康科学分野のインターネットサイトで公開されています。